日本共産党名古屋市議団 市政ニュース
2024年6月28日 No.50
http://www.n-jcp.jp
名古屋市中区三の丸三丁目１－１
電話052(972)2071　FAX052(972)4190
発行・日本共産党名古屋市会議員団

名古屋港管理組合へ申し入れ（6月27日）

自衛艦「ちよだ」の名古屋港入港に抗議

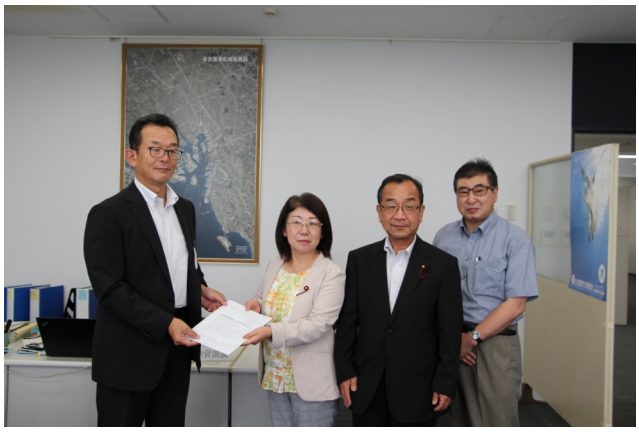
米軍と一体の大軍拡のもと自衛隊員募集活動の恐れも

海上自衛隊の横須賀を母港とする潜水艦救難艦「ちよだ」が、7月5日から7日までの3日間、名古屋港に入港することが明らかになりました。党市議団は27日、党愛知県議団とともに同港管理組合に抗議の申し入れを行いました。党市議団からは田口一登団長、みつなか美由紀議員（同港管理組合議会議員）、県議団は山口清明事務局長が参加しました。

「ちよだ」は潜水艦の軍事作戦をサポートする艦艇であり、2019年10月にはオーストラリア海軍主催の西太平洋潜水艦救難訓練を、アメリカ、シンガポール、大韓民国、マレーシアとともに行っています。岸田首相は日米首脳会談で、日米両国を「グローバルパートナー」と位置づけ、国防・安全保障の面で途切れることなく連携するとの共同声明を発表。米軍と一体の大軍拡がすすめば、日本の自衛隊が米軍指揮のもと米国の戦争に参加することが現実となります。

こうした情勢下での自衛隊艦艇の入港は、市民や港湾労働者の不安をかきたて、名古屋港の軍事利用を既成事実化するものです。戦争放棄を定めた憲法のもと、平和な商業港である名古屋港への自衛艦入港は認められません。

潜水艦救難艦「ちよだ」（海上自衛隊HPより）



申し入れる　（右から）山口県議団事務局長、田口名古屋市議団長、みつなか市議（名港議会議員）

この日の申し入れでは、「ちよだ」入港に抗議するとともに、自衛隊艦船の名古屋港入港を拒否する、日本国憲法を遵守し、憲法9条をあらゆる港湾行政に貫き生かす―ことを求めました。

今回の入港目的は、乗組員の休養、物資補給、広報活動としています。しかし広報活動の中身をみると、一般公開とは別に、より自衛隊に関心を持つ市民を対象とした特別公開も行う、としています。特別公開について田口団長らは、「実態として入隊希望者を対象に実施するものではないか」と指摘。これに対し港営部長は「湾内で自衛隊の隊員募集などは行わないように要請しているが、船内までは確認できない」と答えました。

参加者は、ガーデンふ頭を軍艦の一般公開に利用させず、隊員募集など、乗組員の休養・補給以外の目的での港湾施設の使用を認めないよう要望しました。